

展示つくるべし・ハンドブック特集

～チョウのペパクラ製作・白黒編～

11 ページで紹介しましたオオムラサキの小冊子（札幌市南区）のお仕事で、久々にペーパークラフトに挑戦しました。子ども達向けにはどうしても立体物・工作物を入れたかったので、締め切り延ばしてでも入れさせていただきました。通信でも新バージョンを紹介します。

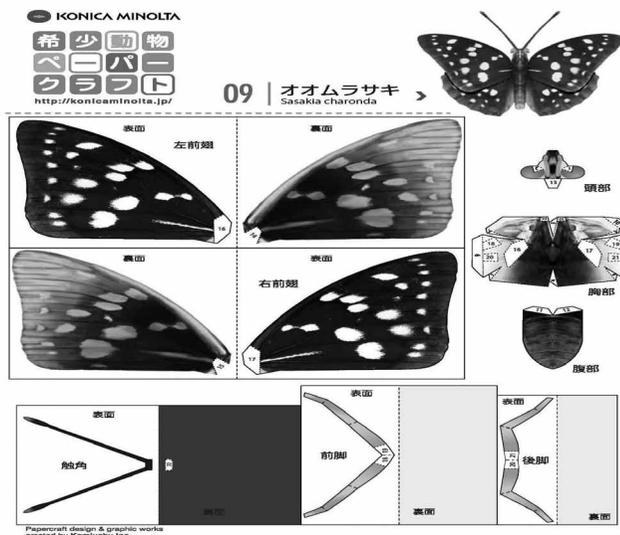
ペパクラ製作のヒント

チョウのペーパークラフトというのは、実はインターネット上でもいろいろ紹介されています。オオムラサキについてもコニカミノルタのものがありました（(株)紙宇宙製作）。これも早速ダウンロードして作って見ましたが、不満だったのは糊付けが多いということと、写真から起こしたらしい模様が今ひとつぱっとしないこと。

こういうデザインはデジタル画でパキッとした方がかっこいいと思っているので、羽根の模様は一からCGでデザインすることにしました（写真もたくさんあったのですが）。模型としてはCANNONサイトのチョウペーパークラフト（Masakazu Kawai 製作）を参考に、糊付けなしで折りのみでつくれるようにしました。このモデルは足と羽を1枚で折り出せるのが良いところです。さらに周囲のカット線もなるべく簡単にして、子どもでも作りやすいように工夫しています。

サイズは実寸大として、オスとメスの大きさの違いも実感できるようにしました。オオムラサキはメスが大きく、おなかもでっぴりしています。

さらに、成虫だけではつまらない



コニカミノルタの「希少動物ペーパークラフト」シリーズのオオムラサキ

他の動物は凝ったものがあるが、これはちょっと手抜きかな。写真を張り合わせるだけという感じ。特に足や触角は1点で糊止めなので、つけにくく、とれやすい。

CREATIVE PARK ミヤマカラスアゲハ

© Canon Inc.
© Masakazu Kawai

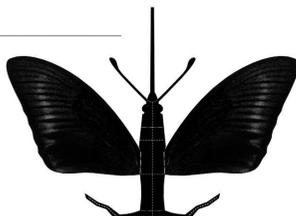
Canon

ミヤマカラスアゲハ（アゲハチョウ科）

分布：日本、朝鮮半島、中国大陸、ミャンマー北部など
 体長：約38～75mm
 青緑色に輝く美しい羽を持ったアゲハチョウ科の一種です。
 山奥の深谷深いなどで花の蜜を吸ったり、水辺に集まっている姿が多く見られます。



【作り方】
 完成写真を参考に、山折り、谷折りの順に行なって折り立ててください。



キヤノンのCREATIVE PARKシリーズのミヤマカラスアゲハ。1枚の紙で糊付けなしシンプルだが、つくりやすい。

ゴマダラチョウ タテハチョウ科

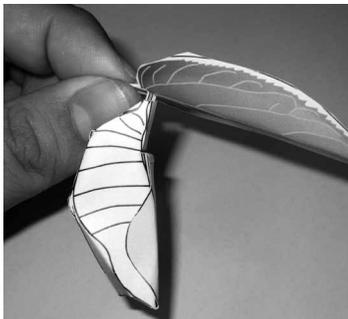
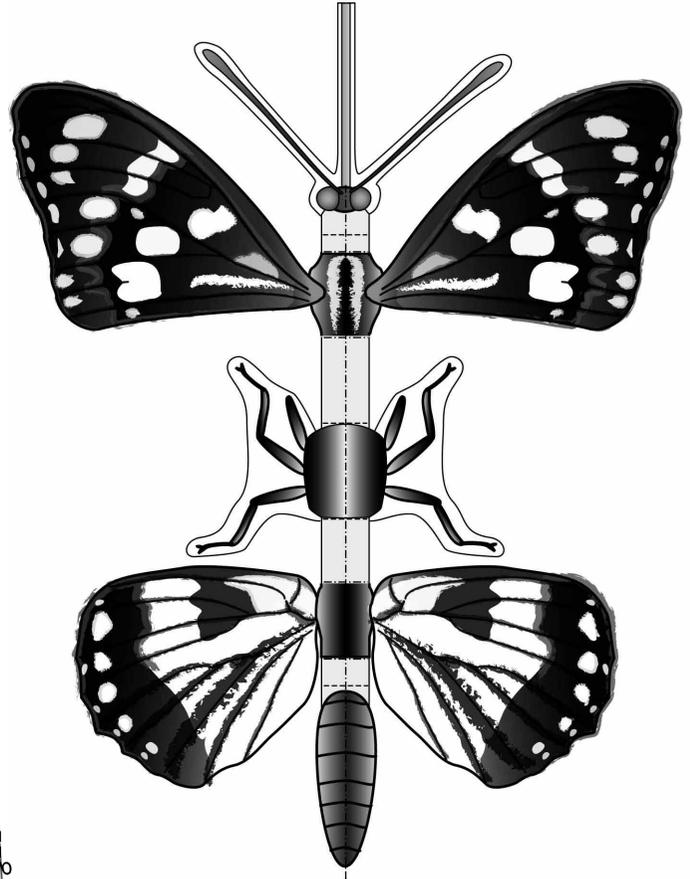


監修: 国立科学博物館

ゾハの前翅長(ぜんしちよう)は4~6センチなどのミカン科の植物を食草とし、1齢幼虫の初期は2回脱皮しますが、蛹化する準備(はね)を終ると、花の蜜や水を吸い

キヤノンの CREATIVE PARK シリーズのナミアゲハ

こちらは違う製作者のもので糊付け多いが、形よく作れる。この他にも多数の作品をダウンロードして楽しむことができる。プリンタの活用例ということで、プリンタメーカーのサイトで紹介しているわけです(ヤマハのサイトも有名)。



撮影用に試作したオオムラサキ
何回も試作しました。

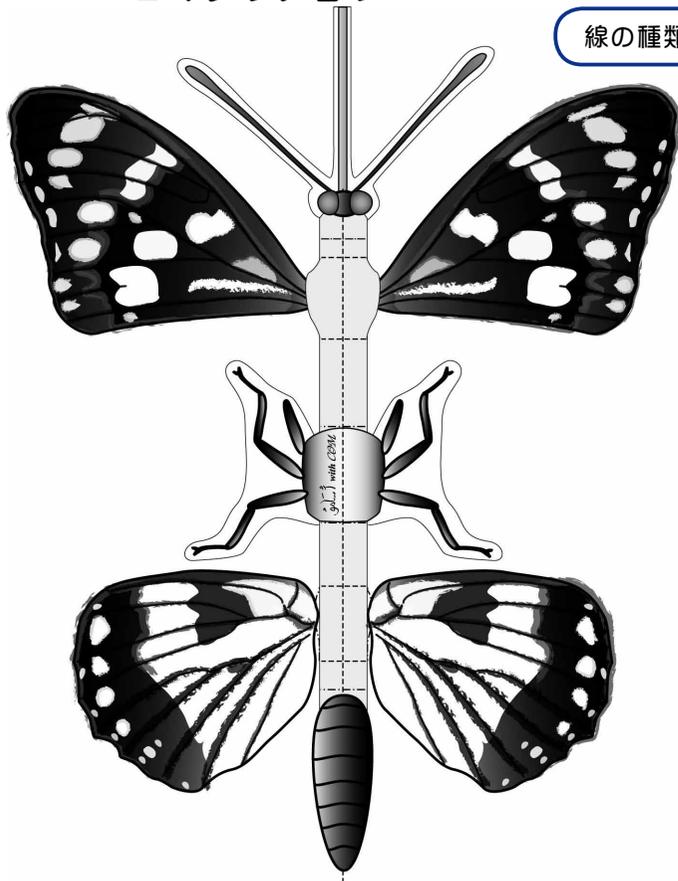
ので、さなぎもオマケでつくりました。こちらは完全オリジナルで、さなぎの特徴的な形を立体で表現できるようにしました。ちょっと苦心しますが、こちらも糊付けなしで組み立てられるようになっています。

白黒で新作

このペーパークラフトは、羽の模様を替えていけば、いろいろなチョウに 응용が利きます。通信でも紹介して行こうと思いましたが、本文白黒なので面白くないなあ...と考えた挙句、白黒でも楽しめるチョウをピックアップして紹介することにしました。お暇な時にでも切り抜いて作り、観察に役立ててください。

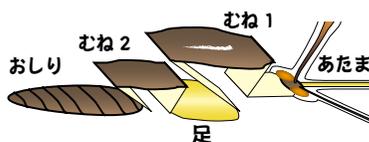
ゴマダラチョウ (うら)

線の種類 ——— 切る ——— 山おり ——— 谷おり



○ゴマダラチョウのつくり方

- ①最初に破線（—）で通信から切り離す。
- ②ていねいにまわりの線を切りぬく。（色に沿って細かく切ってもよい）
- ③おしり・むね・あたまをおりたたむ。



- ④体のまん中で山おりにし、羽を広げる。



- ⑤最後に口をまるめてできあがり。



しかし、冊子でウラオモテをぴったり合わせるのはなかなか難しいため、ズレが生じてしまうかもしれません。そのときはうまく誤魔化して下さい。

今回とりあげる白黒っぽいチョウは、ゴマダラチョウです。オオムラサキと同じエゾエノキを食樹とするチョウで白黒の模様が目立ちます。裏面は茶色がかっているようですが、黒でご勘弁を。

開拓記念館の堀さんによると、札幌市内では、以前はオオムラサキより多かったのが、関係が逆転して最近はあまり見られないチョウだそうです。

このチョウはオオムラサキと同じタテハチョウの仲間ということで、外形や模様の

パターンは似ています。オス・メス、翅のウラオモテで模様がほとんど替わらないので、製作はしやすかったです。実物よりやや大きめにしていますので、つくってみて下さい！



実物はこれくらいの大きさ？